洛東園だより

■平成21年9月発行　社会福祉法人 洛 東 園
■発行責任者:木村晴恵
■〒605-0981 東山区本町15丁目794
■電話番号:561-1171　■FAX:531-8372
■ホームページアドレス　http://www.wf-rakutouen.com

ご 挨 拶

社会福祉法人　洛東園　園長　木村 晴恵

　平素は、社会福祉法人 洛東園に対しまして、ご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

　さて、昨年の11月厚生労働省においては、"介護について理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護家族を支援するとともに、利用者、家族、介護従事者、それらを取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から、高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施するための日"として、「11月11日」を「介護の日」と決めました。このことを皆様ご存じでしたでしょうか。国民の祝日となっていないため、まだまだ周知されていないようですね。京都市内のあちこちで「介護の日」のイベントが行われる予定です。どうぞご参加ください。

　今回の洛東園だよりは「まつり」をテーマとしています。洛東園においては前述の「地域社会における支え合いや交流を促進する観点」から、毎年5月5日には地域の東林町こども神輿が園内を練り歩いて、子供たちから高齢者の方々へ元気を届けていただいています。東林町こども神輿は、町内の有志の方の手づくり神輿で約20年前から東林町東部、西部、南部、北部が集まり運営されています。

　当初は、道路を巡行するだけでしたが「老人ホームのお年寄りにも見て欲しい」との声で、養護・特養・デイの方々と握手を交わしたり、子供たちの代表に「いつまでもおげんきで!」と激励してもらったり、車いすの利用者が「元気で大きくなりや」と赤ちゃんをだっこしたりと、数十年前、地域で普通に見られた光景が年1回ではありますがここでは見られます。毎年5月5日を皆さん楽しみにされています。是非一度お越しください。そして大きな声で「わっしょい!　わっしょい!」と楽しみませんか。

洛東園の理念

◎個性・自主性を尊重し明るい温もりのある生活
◎安全と快適な暮らし
◎地域に根ざした開かれた施設

❏ デイサービスセンター

「祭の櫓と舞台裏」～利用者いとさんと祭～

※いとさん（仮名）…92 歳、おしとやかで
大変面倒見のよい方です。

いとさんは、夫（他界）と二人で地域の役員を長年勤めあげられてきました。夫は地域の少年指導の支部長、自身は婦人会の役員をしており、地域行事の際は、それこそ自分の家のことはほっぽり出して参加していたとのことです。数ある行事の中でも、地域の祭りの時は特に忙しかったと話すいとさんに、「祭」についてお話を伺いました。

■職員： 役員としてお祭りの準備は大変でしたか?
■いとさん： 夫は朝から櫓を組んで高い所に上り、私達婦人会は皆さんの食事準備、朝も暗いうちからお米を大きな釜で５升ほど焚き、おにぎりを手がしびれて握れなくなるくらい作ったわ。
■職員： お祭本番ではいかがでしたか?
■いとさん： 夫たちの組んだ櫓を囲んで、お囃子に合わせて時間を忘れるくらい盆踊りを踊ったの。
■職員： 何がいとさんをそこまでお祭り好きにしたのでしょうか?
■いとさん： 踊っている時の自分自身がものすごく気持ちよかったのと、やっぱり地域のお年寄りの方々が見に来てくれたのが、本当にうれしかった。今は若い人たちに道を譲ったけれど、お祭りの案内が来ると胸がワクワクする。今は、若い人達の盆踊りを見るのがとっても楽しみ。
■職員： 最後にお祭での苦労話を聞かせてください。
■いとさん： しんどい事なんかあらしまへん。自分の好きなことをやらしてもらっていたさかい。楽しかった事しか思い出せへん。

いとさんのお話を伺って、華やかな祭の陰には、いとさんのように「地域の為に」と思い、動いて下さっている方がいらっしゃる事がわかりました。いとさんが婦人会のボランティアで、日本舞踊を披露しに来て下さった洛東園に、今はそのいとさん達の意思を受け継がれた地域の方々が、沢山お手伝いに来てくださっています。

洛東園も毎年10月に「洛東園まつり」を行っています。日頃デイサービスを利用されている方、ボランティアの方、沢山の方々に支えられて今年も開催させていただきます。

養護老人ホーム
みんなのまつり

京都には、四季折々の祭りが数多く行われています。「葵祭り」「祇園祭り」「時代祭り」他、各町内で行われている地蔵盆など規模はさまざまですが“まつり”は1年を通してなじみ深いものです。

洛東園でも1年を通しての最大のまつり「洛東園まつり」を行います。そして、その準備は夏から始まります。

毎年特養と養護合同で合唱隊を編成し、歌声を披露しています。童謡や懐メロなど多くの曲から今年の曲を選定し、曲名が決定したら本番に向けて練習です。日頃のクラブ活動では1人で歌うことが多いのですが、合唱では自慢の喉(のど)をひとつに合わせなければなりません。「歌い出しはどうしよう」「ここ合わせなあかん」等、みんなで話し合いながら練習をします。

その他に、来ていただく方々を門のところでお迎えする看板も、養護のみんなで、製作しています。

さまざまな思いを持って、共同生活をされている利用者がみんなで協力し、作り上げた看板です。ぜひ、洛東園まつりにお越しの際には、看板にも目を止めて頂ければありがたいです。

洛東園まつりのご案内
開催日時
平成21年10月18日（日）
アトラクション
沖縄太鼓　フラダンス
ジャグリング
京炎そでふれ　ゲーム
バザー
月輪小学校鼓笛バンド
月輪中学校合奏
各授産所の販売
野菜の販売等

お食事メニュー
ちらし寿司
焼きそば　わらび餅
フランクフルト　豚汁
回転焼き　など

※食券はセット券¥1,000、単品づつでも購入できます。

※食券は当日にご購入頂けます。当日は売り切れも予想されますので、その際はご了承下さい。来園の際は公共の交通機関をご利用頂きますようお願い申し上げます。

訪問介護
感謝

春夏秋冬、祭りにはいろいろありますが、その中でも収穫祭は、日本の祭りの中でも多く見られるものの一つです。

収穫祭は、農業に従事する人たちが収穫に感謝する祭りで、春から農耕を助け稲田を守ってくれた田の神様に、収穫を感謝する行事だそうです。東北地方で、秋に河川敷など野外に集まり、サトイモを使った鍋料理をする芋煮会もおこりは収穫の感謝からきているようです。京都では、北野天満宮のずいき祭にも、五穀豊穣(ごこくほうじょう)を祝って野菜や穀物で飾りをする野菜神輿(みこし)があります。

「自分の中にいる神様に感謝」

ある訪問先の方で、最近ひとり暮らしをされた方は、いつも「自分の中にある神様に感謝している」とおっしゃいます。

昔、大病をされ、大手術をされ、何とか命拾いをされ、今も再発の恐怖にありながらも、ひとり暮らしを楽しんでいらっしゃいます。しかし、この方も最初から今の心境になったのではなく、一時は、死ぬことばかりを考えていたとのことです。

手術から5年が過ぎて、診察室で「もう、大丈夫でしょう」と言われたときに、「せっかくやから100歳まで生きてやろう」と思われたそうです。

そして、最近、施設を出てひとり暮らしをされ、
好きなときに起きて、
好きなときに食事をして、
好きなときに洗濯をして、
好きなときにアイロンをかけて、
好きなときに掃除をして、

「なんて自由なんだろう」と自由であることのすばらしさを感じ、「今まで生きてきた人生で今が一番幸せ」とおっしゃっています。

先日も「なんかなあ、最近思うんやけど、僕の心の中には神様がいるんやないかなあって。その神様がなあ、僕のことを応援してくれてるんやないかなあと。僕はなあ、いつもその神様に感謝してるんや」と話されていました。

『自分の中にいる神様に感謝』、なんとすばらしい言葉でしょう。

私も見習って、まずは、自分の周りにあるもの、健康、自由、自然、景色、平和などに感謝して、幸せを感じる練習をしていきたいと思います。

❑ 特別養護老人ホーム

『感謝の気持ちを込めて、頂きます。』

朝食前のお二人の会話です。

■加藤さん：「佐々木さんは、朝食はご飯派ですか。パン派ですか。」

■佐々木さん：「私は、ご飯です。」

■加藤さん：「やっぱり、日本人はご飯ですよね。」

■佐々木さん：「そうですね。」

■加藤さん：「私は、お米が大好きですねん。お米を食べたら元気がでます。お米には、本当に感謝をしております。」

白ご飯が大好物というお二人が、お米を食べられることのありがたさを話されています。

今でこそお米は、日本中に出回っていますが、昔は簡単に食べられるものではありませんでした。加藤さんによると、「昔は、お百姓さんのところへ行ってお米を分けてもらったり、配給のお米をもらいに行ってたんや。お米をもらいに行くとそこは大勢の人でなあ、もらうのにも長い時間がかかったんや。それでも少しのお米しかもらえんかったから、お腹一杯にはならんかったわ。だから、少しでもお腹が一杯になるようにお粥さんにしたり、お米の代わりに"きび"を食べていたんや。昔はお米を食べるのに苦労したわ。」

佐々木さん

加藤さん

今、私たちがおいしくお米を食べることが出来るのは、昔の人が苦労を重ねて来られたからだと思います。そして、利用者は、お米に苦労した時代をご存知であるからこそ、お米を食べられることへの感謝の気持ちが深いのだと思います。

≪栄養士のコメント≫

洛東園では、利用者においしいお米を食べて頂けるように、お米選びにもこだわっています。

昨年、原油の価格上昇に伴い、食材の価格上昇があり、食材の見直しを行いました。利用者はお米の味にこだわりを持っておられる為、お米は今までのものから変更せず、他の食材で費用を調整していましたが、現状は厳しいものでした。そこで、園長、栄養士、介護·看護·事務職員でお米の試食会を行いました。価格やブレンド内容は明らかにせず、8種類のご飯を囲んで、「このご飯は色が今ひとつだけどおいしいなぁ。」「いやこっちの方がもちもちしていておいしいなぁ。」「これはぬか臭いしまずいなぁ。」と言いながら、味はもちろんのこと、米粒の色や艶、香り、食感など総合的に評価していきました。その結果、『きぬひかりブレンド』というお米に決まりました。そして、少しでもおいしく食べて頂けるように『おいしく炊ける量でしか炊かない。』というこだわりでお米を炊いています。

もみじの家

貞教夏まつり

今年は8月1日、元貞教小学校で行わるとのことで、お泊まりされる二人と職員が参加しました。

当日の昼ごろは雨が降り、天候を心配していましたが、夕方には晴れ間ものぞきました。昼間の雨の影響か、すごしやすいお祭りとなりました。

貞教夏まつりは、今回が7回目の開催となります。成り立ちについて、夏まつり委員会実行委員長の松永俊治さんに伺ったところ、小学校の統合、幼稚園も休園していき、地蔵盆も縮小傾向にあるなど子供が少なくなってきて、さみしい状況となった今日に「何か元気になるイベントを考えよう」、そして、地域交流を目的に「交流できる場所を作ろう」とのことで始まったそうです。

山本さん（中央）
熊倉さん（右）

髙橋さん（左）

会場に到着すると、早速子供神輿が披露されており、子供たちの力強く担ぐ姿に利用者はみんな「おーっ!」と歓声を上げられて、「子供はかわいい」と大変喜ばれておられました。その後屋台で、できたての焼きそばやコロッケなどを買って召しあがり、ちょっぴりビールも飲みながらほろ酔い気分を味わっておられました。

会場の熱気に誘われるかのように、屋台のかき氷に目をとめた熊倉さん。「昔あんまり食べてなかったけど、おいしいですわ」と、涼しげな表情で召し上がっておられました。

歌のアトラクションが始まり、最前列を陣取り見ておられた山本さんに、隣に座っておられた93歳の方が「おいくつですか?」と尋ねられました。「もう10月で100歳よ」と山本さんが答えられるのを聞いて、「私もがんばります」「あやかりたいです」と驚いた表情で握手を求められていました。山本さんは笑顔でうなずいておられました。

くじ引きコーナーを見つけた高橋さん。「やってみるわ」と挑戦されました。たこせんべいを1枚買ってくじが引けるコーナーです。結果はなんと2等賞。大きなぬいぐるみが当たり、「今夜は抱いて寝るわ」と大変喜ばれておられました。

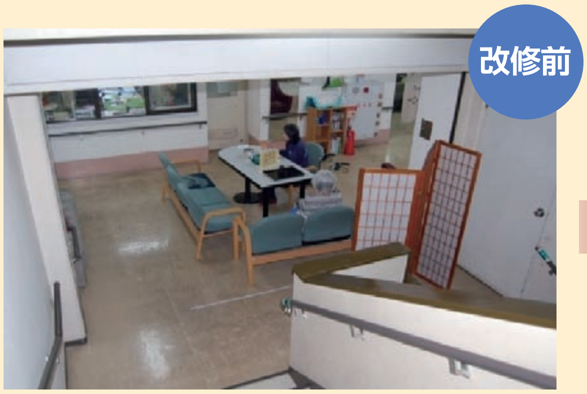
こうしてあっという間に短い真夏の夜のひと時が過ぎていきました。

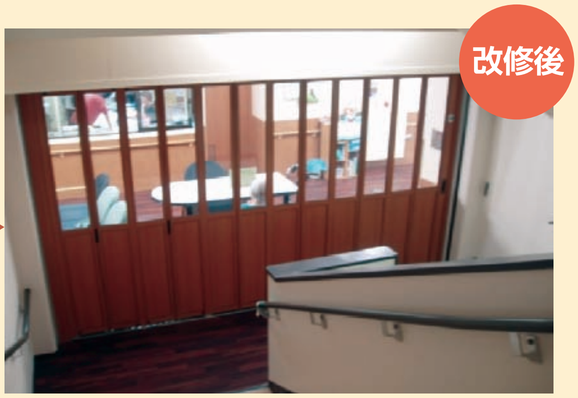
『改修工事終了のご報告』

　この度、快適に過ごしていただける環境を整えるために、日本財団より1500万円の助成金を受けて、平成元年の建設後約20年が経過して建物全体の老朽化がすすんでいた特養棟の改修工事を実施させていただきました。工事期間中は、騒音等で利用者や家族の方々、近隣の皆様に大変ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

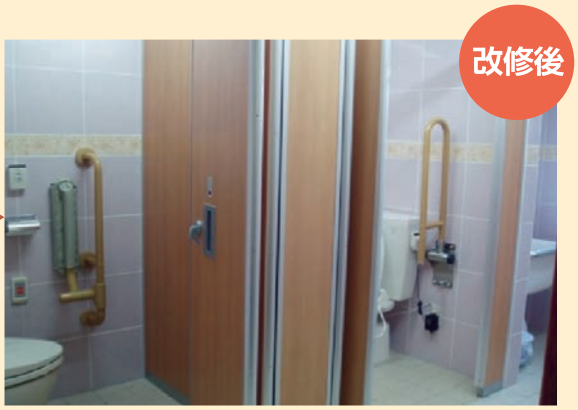
　内装工事により床･壁･天井材の張り替え、及び塗り替え工事を行った結果、室内が明るくなり、良い環境が整えられ快適に過ごしていただいています。またトイレ改修工事後は、広くなり使いやすくなったと好評です。さらには、外壁塗装改修工事を行ったことで、外観が一新され見栄え（みば）がよくなりました。本当にありがとうございました。

◎特養棟2階





◎トイレ



◎外壁

洛東園の行事予定

施設名＼月	10 月	11 月	12 月
養護老人ホーム	一泊旅行	日帰り旅行	すき焼き忘年会
特別養護老人ホーム	ユニット企画	ユニット企画	クリスマス忘年会
デイサービスセンター	運動会	（家族交流会）	クリスマス会
もみじの家	町内運動会参加・避難訓練	家族交流会・お火焚き	クリスマス会・忘年会
全 体	デイ棟避難訓練・洛東園祭り		特養棟避難訓練

その他、クラブなども随時行っております。

編集後記

写真①

写真②

今回のテーマは「まつり」です。

「まつり」と言えば、10月22日に京都の三大祭の一つである時代祭が行われます。

意外と知られていないことですが、時代祭の行列は京都市全域からなる市民組織「平安講社」によって運営されています。明治維新、江戸、安土桃山、室町、吉野、鎌倉、藤原、延暦の8つの時代を20の行列に分けて1列づつ担当しているほか、江戸時代婦人列、中世婦人列、平安時代婦人列は京都の5花街が輪番で奉仕し、総勢で約2000名もの人々が参加する一大行列です。

洛東園の配食サービスのボランティアであり、長年時代祭にも関わっておられる大山良雄（おおやま よしお）さんにお話を伺いました。

「京都市がやってると思われてるけどね。学区民でも知らない人は多いです。昔はね、時代祭の行列に出る言うたら名誉なことで、名乗りを上げる人がいたんやけど、今は頼み込んでようやくですわ。14～15年に1度は学区に当番が回ってきて、その時は300～400万かかる費用の調達もあるしね、大変ですよ。でもやってみると楽しいですよ。私は母と2人やったんで、各家庭から1人出さんならん藤森神社の神輿も免除やったんやけど、中学生になったら〝そろそろ出てもらわんな。そうか寄付金出してもらうか。〟言われてお金なんかないしね、1回やったらやみつきですわ。」

「京都をおいて他には真似のできないものを」「一目で京の都の歴史と文化が理解できるものを」というコンセプトで、明治28年に町おこしとして始まった時代祭、今も市民一人一人の心意気に支えられています。

写真①　平成6年 月輪学区が「織田公上洛列」を担当した時の大山良雄さん

写真②　平成19年には次男の博義（ひろよし）さんが「羽柴秀吉」に扮し、親子2代で出演しました。

（広報委員一同）

洛東園だより

発行／社会福祉法人　洛東園

〒605-0981 東山区本町15丁目794

電話番号:561-1171　FAX:531-8372

ホームページアドレス

http://www.wf-rakutouen.com

※尚、記事中の写真は全てご本人様、ご家族様の承諾を得て掲載しております。

寄付・寄贈

寄贈順

白河 廣武様、木村 昭一様、内貴 和野様、高山 俊彦様、ありがとうございました。

ホームページが新しくなりました!!

アドレスも変更になりました。

是非ご覧ください。

http://www/wf-rakutouen.com